

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成30年3月8日(2018.3.8)

【公開番号】特開2017-53803(P2017-53803A)

【公開日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【年通号数】公開・登録公報2017-011

【出願番号】特願2015-179651(P2015-179651)

【国際特許分類】

G 0 1 N 23/201 (2018.01)

【F I】

G 0 1 N 23/201

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月23日(2018.1.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

試料台 1 3 は、擬似平行光領域にて試料 1 0 0 を支持することが出来る。さらに、試料台 1 3 は移動機構を有しており、X 線の光軸方向に沿って（すなわち、図の左右方向）擬似平行光領域の中で試料 1 0 0 を移動させることが出来る。試料 1 0 0 を多層膜ミラー 1 2 へ近づけると、小角分解能（検出可能な最小角度）が向上し、試料 1 0 0 を焦点 B へ近づけると、測定範囲を大きくすることが出来る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

ここで、擬似平行光領域を、X 線ビームのビームサイズで定義する。x 1 = 2 2 0 0 のときに、X 線ビームのビームサイズは最小値が 0 . 8 となっている。擬似平行光領域は、かかる最小値の 1 . 2 倍以内の領域と定義すると、x が 1 0 0 0 ~ 3 3 0 0 mm の範囲となっている。当該実施形態に係る X 線小角光学系装置 1 では、焦点距離が 4 0 0 0 mm と長く、そして、擬似平行光領域の範囲も 2 3 0 0 mm と広範囲に実現することが出来ている。かかる領域に試料台 1 3 が試料 1 0 0 を配置することが出来る。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

1 X 線小角光学系装置、1 1 X 線源、1 2 多層膜ミラー、1 3 試料台、1 4 X 線検出器、1 0 0 試料。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

